

平成27年10月22日
小樽市人口対策会議【資料4】

小樽市総合戦略

～OTARU PRIDE～

添付編 市民幸福度ガイドライン



平成27年10月

北海道小樽市

1 市民幸福度の概要

平成 23 年 12 月 5 日に内閣府「幸福度に関する研究会」がこれまでの内外における学術研究の成果に基づいて、指標の選別を行い、「幸福度指標試案」を発表しました。

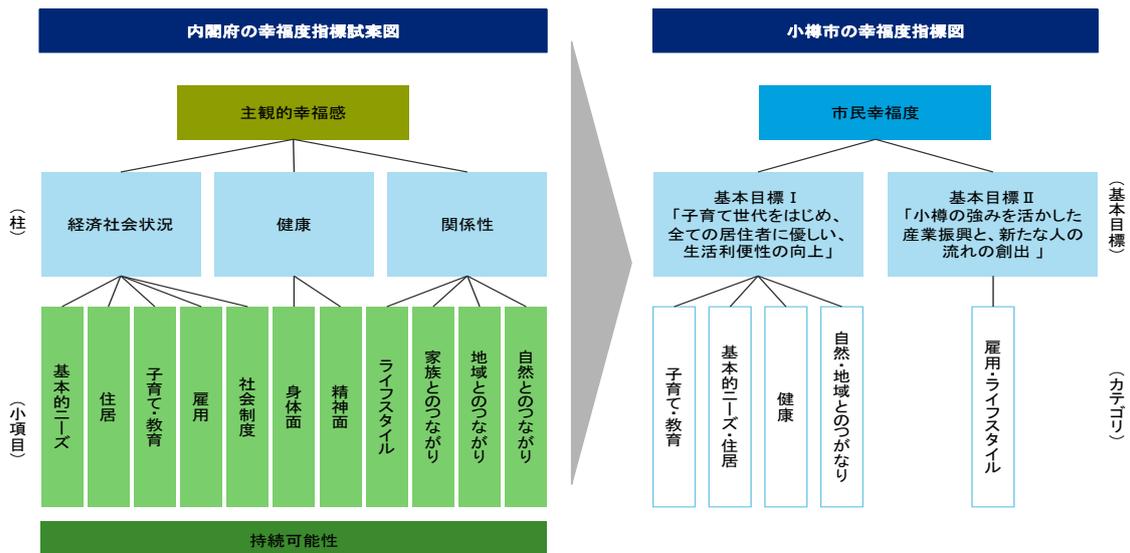
この幸福度指標試案において、内閣府は「主観的幸福度」を頂点と置き、3つの柱として「経済社会状況」「健康」「関係性」を設定し、その小項目として「基本的ニーズ」「住居」をはじめとした 12 個（「持続可能性」を含む）の小項目を設定しています。

当市においては、今回の地域版総合戦略の基本目標の達成度を管理するための指標として、上記に述べた内閣府の幸福度指標試案を複合指標のフレームとして活用し、現在から 5 年後までの幸福度を当市独自で測定することにしました。

幸福度指標試案を活用するにあたり、当市が総合戦略において実施する施策をもとに、定量的・定性的な指標を設定し、各小項目や総合戦略の基本目標と整合するようにしています（総合戦略における施策による影響がないと判断される小項目については、当市として管理対象から除外しています）。

これにより、小項目（当市ではカテゴリという）に設けた幸福度 KPI の実績値を 100 点満点で点数化し、最終的にはこれらを合算し平均することにより、幸福度を点数によって評価しようとするものです。当市の場合、幸福度～基本目標～カテゴリの三層構造により、幸福度と基本目標を点数化しておりますので、これらを次年度以降の実施施策を見直す際の参考値として活用していく予定です。

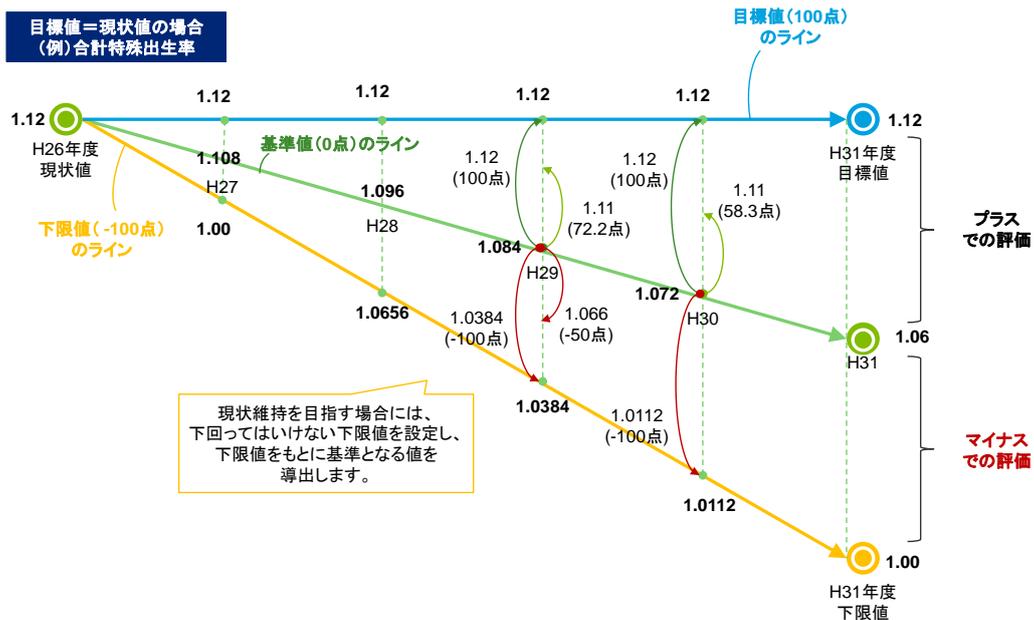
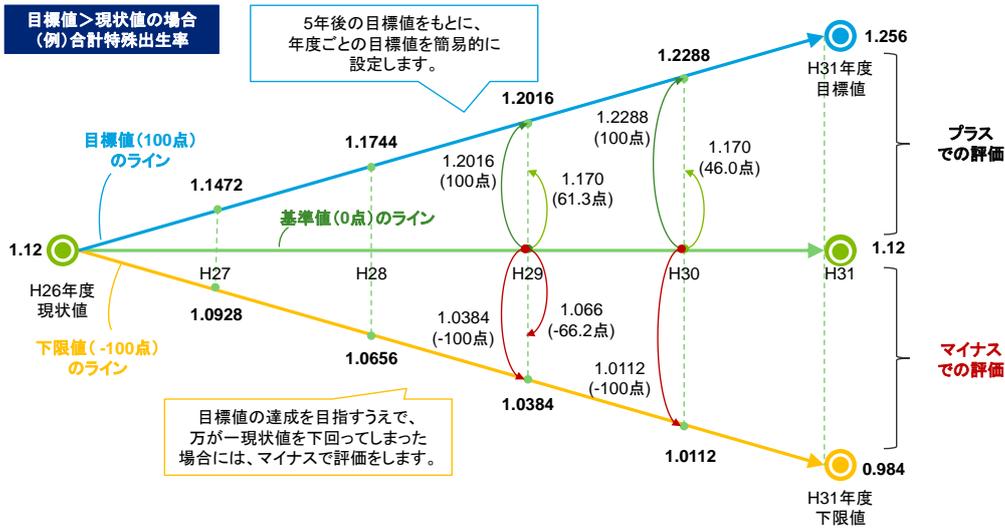
こうした幸福度の可視化を通じて、これまで縦割りで評価していた施策について、横断的な評価が可能になることで、1 事業あたりの費用対効果が高まり、効率的な行財政運営が図られるようになります。



2 各幸福度 KPI の点数化

総合戦略における KPI として活用するために、当市では幸福度指標各幸福度 KPI において平成 26 年度の値を基準値(0 点)として、目標の値を上限値(100 点)として設定し、その到達度(%)を点数化します。万が一、現状値より悪化してしまった場合は、マイナスでの点数化を行います(総合戦略策定時に簡易的な下限値を設定しています)。

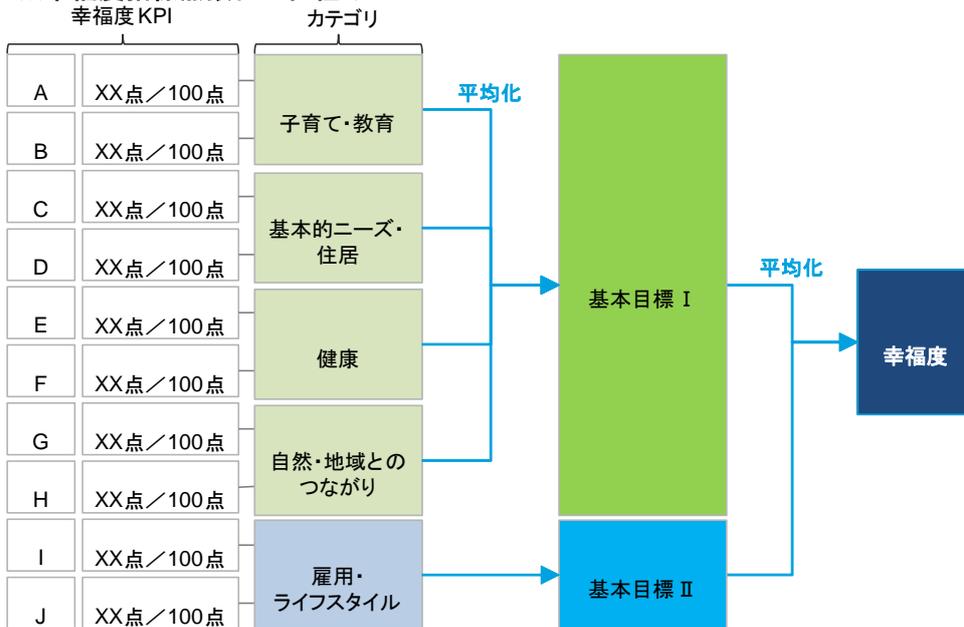
また、現状維持を目標とする幸福度 KPI の場合は、下回ってはならない数値として下限値(-100 点)を設定したうえで、現状の値を目標値(100 点)とし、その中間に位置する値を基準値として採用します。



3 総合的な幸福度の点数化

各カテゴリに幸福度 KPI を点数化することから、総合的な幸福度の点数化が可能になります。基本目標と結びついているカテゴリの数や、各カテゴリに結びついている幸福度 KPI の数は異なることから、各基本目標及び各カテゴリにおいて各 KPI の実績値を平均化します（幸福度点数も同様に算出）。

※幸福度指標点数化の仕組み



※ 基本目標Ⅲは幸福度に直接効果を及ぼすものではないと判断し、算出の対象から外しています。